

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 2 年 1 月 15 日

事業所名 障害児通所支援事業 つくし

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		集団訓練・個別訓練・静養室等、活動に合わせて部屋を設置している	今後も、状況に合わせ活動を工夫しながら継続していく
	②	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		基準以上の、職員配置人数となっている	長期休暇や土曜日等は職員数を増やして対応している
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		個人に合わせたカード(写真・イラスト・シンボルマーク等)で表示している。室内は構造化しバリアフリーになっている	引き続き、特性に合わせた情報伝達を行う
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		空気清浄機・転倒防止マットやクッション等の設置をし環境保全を図っている。不備があれば、敏速に修繕する等の対応をしている	引き続き、施設の清掃・整理整頓を行う。常時、保護者見学も受付している
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		職員全員で支援前・支援後に利用児に対する情報共有を行っている	毎月のケース会議や、問題点があればその都度、職員全員で話し合うことを継続していく
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		評価結果を基に職員全員でミーティングを行い、今後の支援に繋げている	今後も継続していく
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		全職員で、各評価結果を基にミーティングを行いホームページ等で公開している	今後も継続していく
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>	未実施	今後、実施に向け検討していく
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		関係機関や外部研修会へ参加している	今後も、積極的に研修会に参加していく
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		常時サービス提供時に様子観察やアセスメントをし保護者との面談や学校訪問・関係機関との会議等で情報を得て計画を作成している	継続していく
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		チェックシートを用いて、初期状況の聞き取りをしている	継続していく
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		アセスメントや常時、サービス提供時に利用児の様子観察、保護者との面談や学校訪問・関係機関との会議等で情報を得ながら、特性に合わせた支援内容や保護者のニーズも含め個別支援計画を作成している	継続していく

関係機関や保護者との連携	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員全員が子どもの特性や状況を共有・理解し実施している	継続していく
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		個別活動・集団活動とも全職員で考案し周知している	必要性や目的を考えながら、今後も継続していく
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		施設外での活動や季節に合わせた内容を導入している	プログラムの内容を保護者に説明し同意を得ている
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団活動では個別活動で見ることがない子どもの様子が見られ他者との関わりの中で大きく成長するので両面を意識して支援計画を作成するようにしている	個別支援計画の内容の変更や成果を保護者に伝えていく事を継続して行う
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		常時、支援の流れや内容・学校からの申し送り等は、職員全員が情報共有するようにしている	継続していく・情報共有に努める
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎回、振り返りを行い、達成できた事や反省・改善する点を話し記録に残している	次回の支援に繋がるように、振り返りを継続していく
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個人ケースに活動内容や様子を記載し支援に繋げている・必要時は排泄や睡眠時間の統計をとり支援にいかしている	今後も、保護者からの情報を得ながら、より良い支援に繋げていく
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月毎に、モニタリングを実施・必要があれば、その都度の見直しも実施している	全職員で、情報共有し協議しながら進める事を継続していく
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者を主に、ケースに合わせて担当者が同行している	継続していく
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関の会議に参加し情報共有している	継続していく
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		保護者や関係機関、医療関係からの情報(サポートブック等)を収集している	常時、状況を把握し継続していく
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		協力医療機関や主治医と連絡を取れる体制を整えている	利用時は、必ず保護者より近況情報を得ている事を継続していく
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		円滑に移行出来るように教員や福祉関係者とのケース会議や見学を受け入れている	関係機関と情報の共有に努める
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		学校訪問や施設見学を行い、支援内容等の情報共有をしている	継続していく
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要事項により、会議の出席や他事業所との情報交換をしている・職員が専門機関の研修を受講している	今後も、研修の機会を設けていく
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		野外活動等で、家族や兄弟が参加できる行事を計画し交流を図っている	交流できる機会を検討していく

	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している			障害者団体と連携し各関係会議に積極的に参画している	継続していく
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○		療育の様子を連絡帳に記載・お迎え時等に様子や気づいた事、達成出来た事等を伝えている	今後も、保護者と連携しながら継続していく
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		子どもの特性に合わせて、自宅や外出時等で使用するスケジュールや要求カード等を製作し、カード支援を実施して頂いている	保護者と連絡を取り合う中で、子どもの対応や関わり方を伝える事を継続していく
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行っている	今後も、丁寧な説明に努める
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者の要望等を聞き入れたり、必要とされる内容を支援計画とし、6ヶ月毎に説明を行い同意を得ている	引き続き、保護者の方に理解していただけるように努める
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者の会や保護者研修会等、また学校の担任の様子を伺ったり、担当者を含め職員全員でケース会議をしながら対応している	より相談しやすい環境作りをしていく
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者の会を年2回開催している。家族で参加する野外活動も行っている	保護者の会に、より多くの方に参加して頂けるように情報収集をし、意見交換できるように努める
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		契約時に、苦情相談窓口を設けている事を説明している・相談事がある場合は、随時、対応している	保護者からの苦情や相談があった場合は、全職員で会議を行い、記録に残すことを継続していく
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、必要事項を記載したおたよりを発行している・年4回運営法人全体の会報を発行している	より分かりやすいように工夫していく
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	○		本部の施錠できる書庫に保管している	継続していく
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		意思の疎通や情報伝達がスムーズに行われるように視覚提示等をしている・状況に応じて個別に話している	子どもの特性や保護者に配慮し、意思の疎通や情報伝達が行えるように工夫している
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		フェスタ・研修等、年数回地域に広く啓発活動として行っている	今後も、地域の理解と協力を得て継続していく
	非常時等の対応	④②	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各マニュアルや感染症対応マニュアルは専門職員により作成されている
④③		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回消防署等の指導を受け避難・防災訓練をしている	避難・防災訓練実施していることがあまり保護者に周知されていないので行う前後は伝えるように努める
④④		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		アセスメントで保護者より聞き取り、職員全員で情報共有している	利用日前後のミーティングで確認している事を、今後も継続していく

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		おやつ提供は行っているため保護者に確認している	保護者との情報共有や子どもの様子等の情報収集に努める
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例があれば、事業所内のミーティングで情報共有している	ヒヤリハット事例があれば改善点や再発防止に努めるようにする
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修会などがあれば、参加するように努めている	職員が、研修会などに参加できる機会を設けていく
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		利用児の様子を職員間で共有して対応しているため、パニック等があっても身体拘束した事がない	やむを得ず身体拘束が必要な場合は、必ず保護者に同意を得て、詳細を記録に残すようにする

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。